



改正
增補

初學

歌式

續方
詞寄
四





○ 愆

物 愆

此のひちまのくみとをめ又八つてまづてとぬき
 おひそひるんともむく愆のまよそてハ入をむるよ
 つうくわと迷ハばそてハいあらんともひ浦舟よこと
 してハこれむるとも又ハ神のちうちをむるよりち
 ちあハ神をそてハらハはあそんともとりまてお
 母かそてても又愆のうと物よもそんご一てまぐ
 とゆよのまよも物のかとまよあひちてまど一物
 のんハ一そのうままりてのひもまら
 ちせの初あふりいつうかふりまら初めくまひそ
 むる愆そむるまそむる るまそむる 乱れ初る まよそむる おひそ
 初くまらああおひそら初めまらつち かひそむる
 かしこむる

愆 愆

愆愆のまよるまらりれくおひそれなぐらまよの
 とちのまよるまら愆愆のまらちかむ潮とそまら

誓意

疑意

負意

付意

ちりちりたるの葉ももろくしと人の形もさう
 りうめをこ 初らふゆきまらうそちりふれり
 うらめをこ人の心とまらうそちりふれり
 かくもれども人の心とまらうそちりふれり
 心ともいひ又かたき人よまらうそちりふれり
 心ともいひ 初らふゆきまらうそちりふれり
 このひもと人乃ちさうとまらうこのひも又人の
 あつ世かたきもいひまらうこのひも又人の
 初らふゆきまらうこのひも
 付意よまらうとむハタ人とは何所かれば文
 ちりちりたるハタまらうとむハタ人とは何所かれば文
 文のちりちりたるハタまらうとむハタ人とは何所かれば文
 ちりちりたるハタまらうとむハタ人とは何所かれば文
 ちりちりたるハタまらうとむハタ人とは何所かれば文
 ちりちりたるハタまらうとむハタ人とは何所かれば文

各意

稀意

ちりちりたるの葉ももろくしと人の形もさう
 りうめをこ 初らふゆきまらうそちりふれり
 うらめをこ人の心とまらうそちりふれり
 かくもれども人の心とまらうそちりふれり
 心ともいひ又かたき人よまらうそちりふれり
 心ともいひ 初らふゆきまらうそちりふれり
 このひもと人乃ちさうとまらうこのひも又人の
 あつ世かたきもいひまらうこのひも又人の
 初らふゆきまらうこのひも
 付意よまらうとむハタ人とは何所かれば文
 ちりちりたるハタまらうとむハタ人とは何所かれば文
 文のちりちりたるハタまらうとむハタ人とは何所かれば文
 ちりちりたるハタまらうとむハタ人とは何所かれば文
 ちりちりたるハタまらうとむハタ人とは何所かれば文
 ちりちりたるハタまらうとむハタ人とは何所かれば文

ちりちりたるの葉ももろくしと人の形もさう
 りうめをこ 初らふゆきまらうそちりふれり
 うらめをこ人の心とまらうそちりふれり
 かくもれども人の心とまらうそちりふれり
 心ともいひ又かたき人よまらうそちりふれり
 心ともいひ 初らふゆきまらうそちりふれり
 このひもと人乃ちさうとまらうこのひも又人の
 あつ世かたきもいひまらうこのひも又人の
 初らふゆきまらうこのひも

書

あはれいはいふまゝにうらなひをうつしよもよもこの

あはれいはいふまゝにうらなひをうつしよもよもこの

を癒

あはれいはいふまゝにうらなひをうつしよもよもこの

あはれい

あはれいはいふまゝにうらなひをうつしよもよもこの

あはれい

迎癒

あはれいはいふまゝにうらなひをうつしよもよもこの

あはれいはいふまゝにうらなひをうつしよもよもこの

旅癒

あはれいはいふまゝにうらなひをうつしよもよもこの

あはれいはいふまゝにうらなひをうつしよもよもこの

癒面紙

あはれいはいふまゝにうらなひをうつしよもよもこの

あはれいはいふまゝにうらなひをうつしよもよもこの

あはれいはいふまゝにうらなひをうつしよもよもこの

○ 雑

山歌

あはれいはいふまゝにうらなひをうつしよもよもこの

あはれいはいふまゝにうらなひをうつしよもよもこの

あはれいはいふまゝにうらなひをうつしよもよもこの

あはれいはいふまゝにうらなひをうつしよもよもこの

あはれいはいふまゝにうらなひをうつしよもよもこの

あはれいはいふまゝにうらなひをうつしよもよもこの

あはれいはいふまゝにうらなひをうつしよもよもこの

あはれいはいふまゝにうらなひをうつしよもよもこの

あはれいはいふまゝにうらなひをうつしよもよもこの

あしけの宮の美はくりにてさるるをくいの宮と公彦は
とどろくつて流るくゆつちをさうむいひいれや
名乃そくねと八ひう一危まみ壺掌君といひ一人奉事
よとくれが物まぢされてのなれ一の函谷といひ宮ま
いりぬい実鶴乃かろあらざり八人とととととと
よ壺掌君り三千の客の中は鶴のおねとくくさるる
ありこれぐあハも乃鳴き縁と一これよとの名もも
鳴らうの物めく実のとと鳴てとと一これなり
も乃そく縁といひとと実まふむく実のなまぬこ
ハ世中志川うまて宮のともとととととととととと
お城の美ハ東流まはるくあまゆらんととととととと
不逢恋よとせてもよむく松の下乃宮の宮とと実の
清あかとお城のよせく不破の美ハあれたてく実の
いさびさ一もたぶらぬかりぬらんとよむ鹿の宮ハ
流といふつとくうの歌さうり換てとととととととと

野

ぬりくもそくあり白川の美ハ日較とてはんま
ま一知ぬゆらとととととととととととととととと
野徑といふ歌ハ此の路く分りまことけなと歩けの
御とよむ一野外ハ此とよあバわけの外の字んか
一又此といふ歌ハ本と流てもく一うもととととと
よ松原松原かと本の原ハあ一あさちが原萩の枝
原かや原あのかうかと一うむ一甚外むさ一の原
まやさう原とくさか原かとハ勿論く此ハ四季よりり
てとのく統りらとととととととととととととととと
といふハ此とまのり人く此ちのうとととととととと
あるあり野亭といふハ此の原くハ雲原初たはたは勅依勅依よあ
く一此ハ清浦初よ名はがよひこれともとととととと
ゆまをせといふと源氏よもととととととととととと
仲丸殿名はのせはるあり同初よあさちとととととと
かといふハ此ハ此ハあさちととととととととととと

まねてはあゝといふとき又くつておといはるおと
名はよもありやあせとハ草をせせん為よおとを焼く
よせの船ハ四季の季節よりせ又名はなまはるはよつて
くつてああるとくつて略之

水色

水色といふは川地流は井泉滝つれもよびく
まづうもよびく海を流すとくつてああるは四季
乃中よびくつれもよびく水色といふは川地流は
くつてああるは四季の季節よりせ又名はなまはるはよつて

川

川といふは川地流は井泉滝つれもよびく
くつてああるは四季の季節よりせ又名はなまはるはよつて
乃中よびくつれもよびく水色といふは川地流は
くつてああるは四季の季節よりせ又名はなまはるはよつて

後

くつてああるは四季の季節よりせ又名はなまはるはよつて
乃中よびくつれもよびく水色といふは川地流は
くつてああるは四季の季節よりせ又名はなまはるはよつて
乃中よびくつれもよびく水色といふは川地流は
くつてああるは四季の季節よりせ又名はなまはるはよつて

田原

乃使といふ事は、くちよは、人せうてのふど、
 のと、柵のさう、乃、声よん、と、う、と、あ、つ、
 う、あ、ひ、と、う、ら、ひ、さ、び、く、は、り、と、あ、る、あ、つ、
 又、あ、つ、と、あ、つ、く、か、ん、と、あ、つ、
 吾、乃、あ、ひ、と、あ、つ、と、あ、つ、
 乃、ち、あ、ひ、と、あ、つ、と、あ、つ、
 よ、ち、あ、ひ、と、あ、つ、と、あ、つ、
 又、あ、つ、と、あ、つ、と、あ、つ、
 乃、ち、あ、ひ、と、あ、つ、と、あ、つ、
 世、よ、う、う、ち、あ、つ、と、あ、つ、
 乃、ち、あ、ひ、と、あ、つ、と、あ、つ、

田原

のといひて、田原といひて、
 も、あ、つ、と、あ、つ、と、あ、つ、
 と、あ、つ、と、あ、つ、と、あ、つ、
 乃、ち、あ、ひ、と、あ、つ、と、あ、つ、
 世、よ、う、う、ち、あ、つ、と、あ、つ、
 乃、ち、あ、ひ、と、あ、つ、と、あ、つ、
 田原のあつと、あつと、あつと、
 半、苗、と、う、つ、と、あ、つ、と、あ、つ、
 乃、ち、あ、ひ、と、あ、つ、と、あ、つ、
 世、よ、う、う、ち、あ、つ、と、あ、つ、
 乃、ち、あ、ひ、と、あ、つ、と、あ、つ、

田原

のといひて、田原といひて、
 も、あ、つ、と、あ、つ、と、あ、つ、
 と、あ、つ、と、あ、つ、と、あ、つ、
 乃、ち、あ、ひ、と、あ、つ、と、あ、つ、
 世、よ、う、う、ち、あ、つ、と、あ、つ、
 乃、ち、あ、ひ、と、あ、つ、と、あ、つ、

述懐

うらまごての気神よりさるるやとひつゝ一とハ
邪書の人とせよやまらうらひつげられぬの事
細らやあつゆふとまの自ゆふ一り神のまむが
あぢのぢぢとひろくまのまむが一かさらんを
むむろを神より大いひひらく一や人もあつ
やとちかぢぢとひひらくらのらうい
[あぢのまむが述懐おひどのあつらうかればはるま付
けんはるま一述懐のあつちうらうひひらく一
のこあつらうと或は人よとれ或はひひらくは慈あえ
乃述懐かして各別こそれえあつらうならん一後
成に述懐百もあつらうもゆふと何況あつらう一又
るかなとよ心知つらう一とあつらうあつらう一又
八雲のあつらう述懐とさる程あつらうつび一このさ
るもつらうとく一とあつらうゆふとく一あつら
懐とらふあつらうのさつらうあつらうなれとれとら

懐旧

とくさるる程あつらうくぬ神あつらうのさつら
とさるる風神とあつらうとさるるさつらうとさるる
ぬとさるる又述懐よハ述懐のさつらうとさるるの述懐
もよむとさるる^{述懐}とさるる又あつらうとさるる
とさるるハあつらうのさつらうとさるる乃述懐とさるる
るあつらうとさるるとさるるゆふとさるるをあつら
なつらうとさるるとさるるハあつらうのさつら
あつらうとさるるとさるるあつらうとさるるのさつら
とさるるのさつらうとさるるぬ人乃道の述懐とさるる
とさるる一とさるるなつらうとさるるあつらうとさるる
知つらうとさるるとさるるとさるるあつらうとさるる
あつらうとさるるとさるるのさつらうとさるる
[懐旧ハあつらうとさるるあつらうハ我世のむとさるる
うとさるる人のさつらうとさるるとさるる又ハあつら
のさつらうとさるるのさつらうとさるる]

長傷

世乃親志のよむいづらとてある者志れぬ被るる
吾親志やいづらとてある者
[吾志もわれどく] 無常は八世の志なるぬるとひるく
もしい又さうあつて吾人とならなくんともふい
ハさうも人としなひてななくんとも 愚田管注長傷
の志のいづら親も物折らんと企らざるもふい
ろりんすしめとかやんとさう又毒計は虫よ由度
このうちたは八世の志とてふもあつて
若かたし乃志ハ志と親もも物折らんとさう
て千世万代たはさうとてさうもあつても長傷の
中よかたもれく親の有やうもふい人の志な
さうとてさうとてさうとてさうとてさうとて
かたし乃志と親もも物折らんとさう
諸行無常と親もも志の志の志の志の志の志の志
とありと志ひ志乃志水の志と志の志の志の志の志

旅

ひまわり約よとちね支法とさうとてさうとて
ななとさうとてさうとてさうとてさうとて
かたし乃志の志の志の志の志の志の志の志
もさうとてさうとてさうとてさうとてさうとて
ハさうとてさうとてさうとてさうとてさうとて
の志の志の志の志の志の志の志の志の志の志
親もも志の志の志の志の志の志の志の志の志
この世りさうとてさうとてさうとてさうとて
あつてさうとてさうとてさうとてさうとて
うだつてさうとてさうとてさうとてさうとて
[旅省ハ志の志の志の志の志の志の志の志の志
と志の志の志の志の志の志の志の志の志の志
よて旅の志の志の志の志の志の志の志の志の志
旅省の志の志の志の志の志の志の志の志の志
と志の志の志の志の志の志の志の志の志の志

税

つひは安の終るる所のつとあつたれども、此の程
とのそと海をかくる沖のふひのさうくと、此のれ
ゆくとあつたつとのと、その境をありとなつた、
つちのほまのりとなつた、此の程、まよりの白波と、
ト川なつた、此の程、此の程、此の程、
こつと、此の程、此の程、此の程、
ゆくと、此の程、此の程、此の程、
こつと、此の程、此の程、此の程、
のさうと、此の程、此の程、此の程、
初のつと、此の程、此の程、此の程、
つちのほまのりとなつた、此の程、
こつと、此の程、此の程、此の程、
ゆくと、此の程、此の程、此の程、
こつと、此の程、此の程、此の程、
のさうと、此の程、此の程、此の程、
初のつと、此の程、此の程、此の程、

うよらつたひきつて、つと、此の程、
なつた、此の程、此の程、此の程、
つちのほまのりとなつた、此の程、
こつと、此の程、此の程、此の程、
ゆくと、此の程、此の程、此の程、
こつと、此の程、此の程、此の程、
のさうと、此の程、此の程、此の程、
初のつと、此の程、此の程、此の程、
つちのほまのりとなつた、此の程、
こつと、此の程、此の程、此の程、
ゆくと、此の程、此の程、此の程、
こつと、此の程、此の程、此の程、
のさうと、此の程、此の程、此の程、
初のつと、此の程、此の程、此の程、

